

# 実践活動 I

(活動テーマ・グループ設定)

例：森のデザイン、暮らしの木装、女性による林業・DIY、薪から暮らしを変える等

日時：平成24年9月30日（日） 13:00～15:00

講師：丹羽 健司（矢作川水系森林ボランティア協議会代表）

## 概況



### 活動テーマの設定

地域貢献活動を行おうと考えたとき、まず何を解決しようとしているかを考え、具体的な行動を起こすことが大切になる。

自分たちの活動の方針について考えるため、受講生は住まいが流域の上流・中流・下流いずれに当たるかと、自分自身の過去、現在、未来について記入し、発表した。

・これまでの講義で、森を知る・学ぶ方法として、森の健康診断、森林塾などの活動があること、森林の活用のために実際に活動している人も、ボランティアから生業としている人まで幅広く存在していることや、木材の利用は全く無いわけではないことがわかった。

・木材の利用には、木材を燃やす方法（薪やチップにした上でして燃料として）か燃やさない方法（加工：割り箸、建造物、組手什など）がある。一定以上の年齢の人は薪割りをしたことがあるが、燃料としても加工物としても、日常的には利用できていないのが現状である。また、ただ木を利用すればいいというものではなく、木の産地などを考え、地域の振興に繋がっているかなどを考慮する必要がある。

◎地域の活性化と木材活用の例

土岐川・庄内川の源流付近で森の健康診断・間伐を行うイベントを行っている。間伐した木はそのまま運び出され、参加者は運び出した量に応じた地域通貨を受け取る。参加者には地域通貨で買い物をしてもらい、運び出しには近所の人を雇うことで、地域の経済の活性化にもつなげている。

・木材を利用する先、出口はある。山(生産の場)とどうしたらつなげるかを考えることが重要である。また、活動するにあたって、何事も実際に経験してみることも重要である。行動した経験を積むことで、知識の不足を補い、計画の問題点や新たな方策などを見つけることができる。

足助きこり塾で自主活動を行うことを決定し、日程調整を行った。